

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道180号 岡山環状南道路			事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局	
起終点	自：岡山県岡山市南区藤田 至：岡山県岡山市南区古新田					延長	2.9 km	
事業概要								
一般国道180号は、岡山県岡山市北区から鳥取県米子市に至る延長約180kmの主要幹線道路である。 岡山環状南道路は、高規格道路「岡山環状道路（岡山市街地の外周延長約40km）」の一部を構成する岡山市南区藤田から岡山市南区古新田に至る延長2.9kmの道路である。事業目的は、岡山市都市部で発生している交通混雑の緩和、交通安全の確保、物流ネットワークの形成等である。								
H21年度事業化			H20年度都市計画決定		H23年度用地着手		H24年度工事着手	
全体事業費		約444億円		事業進捗率 (令和6年3月末時点)		約87%		供用済延長 0.0km
計画交通量		23,700 ～ 89,600 台/日						
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)		総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
	2.3			82 / 460 億円		1,038 / 1,038億円		
	対 (参考)	— [2%]	8.7 %	事業費：59/ 437 億円		走行時間短縮便益：920 / 920 億円		R5 年
	効果 (参考)	— [1%]		維持管理費：24/ 24 億円		走行経費減少便益：102 / 102 億円		
	分析 (参考)	— [1%]		更新費：0/ 0 億円		交通事故減少便益：16 / 16 億円		
(残事業)		(残事業)		感度分析		(残事業)		
12.6		86.2 %		交通量		交通量		
— [2%]				事業費		事業費		
— [1%]				事業期間		事業期間		
				B/C=2.2～2.3(±10%)		B/C=12.1～12.6(±10%)		
				B/C=2.2～2.3(±10%)		B/C=11.7～13.5(±10%)		
				B/C=2.2～2.4(±20%)		B/C=12.2～13.0(±20%)		
事業の効果等								
①円滑なモビリティの確保								
・渋滞損失時間の削減が期待される。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・国道30号を利用するバス路線の利便性向上が期待できる。 ・玉野市～岡山空港へのアクセス向上が期待される。								
②物流効率化の支援								
・総社市から岡山港（重要港湾）へのアクセス向上が期待される。								
③都市の再生								
・広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する。								
④国土・地域ネットワークの構築								
・高規格道路「岡山環状道路」の一部として位置づけられている。								
⑤個性ある地域の形成								
・玉野・渋川（海水浴場等）（R5観光入込客数：約254万人/年）へのアクセス向上が期待される。								
⑥災害への備え								
・第一次緊急輸送道路である一般国道30号の代替路線として機能する。								
⑦地球環境の保全								
・CO2排出量の削減が期待される。								
⑧生活環境の改善・保全								
・NOX排出量の削減が期待される。 ・SPM排出量の削減が期待される。								
⑨他プロジェクトとの関係								
・一般国道2号岡山倉敷立体（Ⅰ期）（R4年度事業化）、一般国道180号岡山西バイパス（西長瀬～櫛津）（R2年度事業化）、総社・一宮バイパス（S48年度事業化）と一体的に整備。								

- ・第3次晴れの国おかやま生き生きプラン(R3.3)において「企業誘致・投資促進プログラム」の重点施策「交通基盤整備」に位置づけ。
- ・^{おかやま}岡山市第6次総合計画後期中期計画(R3.6)において「人と環境にやさしい交通ネットワークの構築」の重点施策「道路ネットワークの充実・強化」に位置づけ。

関係する地方公共団体等の意見

岡山市長の意見：異議ありません。

一般国道180号 岡山環状南道路は、岡山市の外環状線の一部を構成し、大樋橋西交差点～錦南交差点を接続することにより、岡山市中心市街地や国道2号の渋滞緩和、物流の効率化による産業振興に大きく寄与する重要な道路であるため、早期開通に向けた着実な整備を要望します。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針(原案)について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
- ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・岡山西バイパス側道部の全線開通および国道180号総社・一宮バイパスの部分開通による交通集中や周辺開発の増進、人口増加に伴い、渋滞や交通事故が発生している。
- ・国道180号^{そうじや いちみや}総社・一宮バイパスが部分開通、市道^{ふじたうらやすみなみまち}藤田浦安南町線が開通、国道2号^{おおひばしにし}大樋橋西交差点の立体化が完了し、岡山環状道路として一体的整備が進められている。
- ・国道2号岡山倉敷立体(I期)が令和4年4月に新規事業化。
- ・コネクトパーキング岡山・早島が令和6年4月に新規事業化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和6年3月末時点で、事業全体の進捗率は約87%、用地の進捗率は100%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

暫定供用を目指して工事を推進している。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

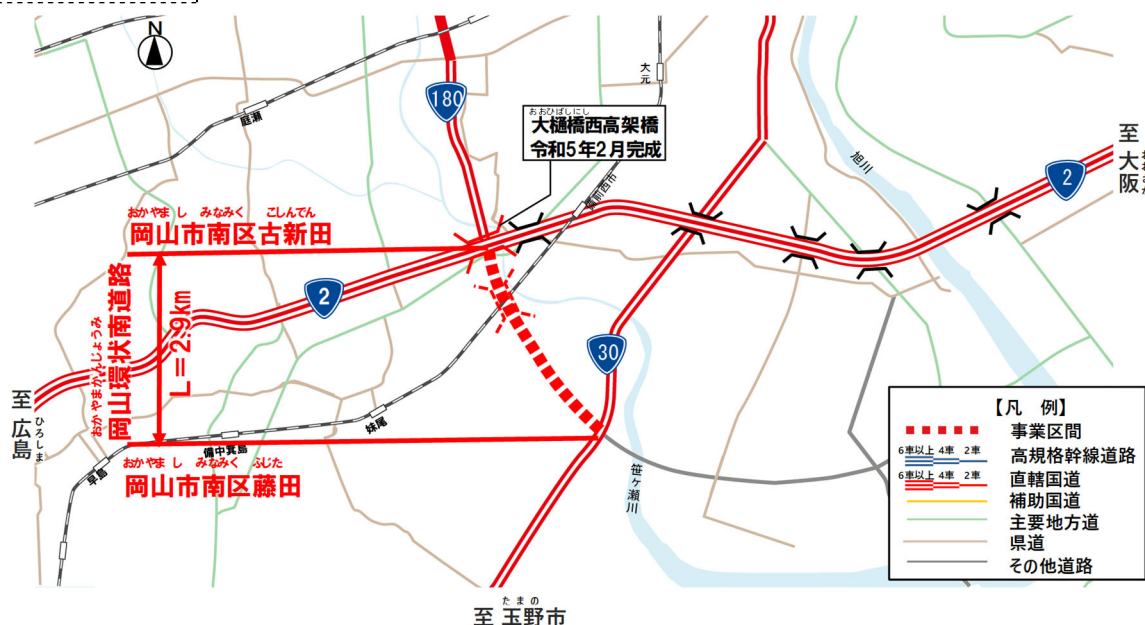
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)